



右: 大きな口を開けてけんちん汁を食べる兄弟。
中上: テーブルを囲って食べている家族連れ。
中下: 料理の準備をしているボランティアの人。左が金川聡美さん。
上: 黒板に書かれた可愛いデザインのメニュー表



広がるコミュニティの輪 栄養満点子ども食堂

全国で500か所あるといわれる子ども食堂。流山市では、「こども食堂流山から風流(ダイニングカフェから風流)」が2016年4月に発足し、現在は5か所ある。「駒木台こども食堂(駒木台福祉会館)」「おひさまこども食堂(東葛病

院おひさま保育園)」「南流山子ども食堂(南流山センター)」「千葉県生涯大学校こども食堂(北部公民館)」が約2年の間で作られた。今回5か所ある子ども食堂の一つ「南流山子ども食堂」を訪れた。(文・写真: 池谷明日香)



子ども食堂は子どもの貧困対策として注目をあつめている。だが、流山市では、貧困対策よりも地域コミュニティづくりを目指して活動しているところが多いようだ。

新たな市民は経済的には恵まれていても、急激に人口が増加している新興住宅地では人間関係や地域社会との繋がりは希薄だ。社会との接点が少ないまま生活している人も多い。そのため、子ども食堂が地域の居場所を担うことができるのではないかと期待されているのだ。

南流山子ども食堂は、金川泰三さん(39)・聡美さん(36)夫妻が運営している。今のところ月1回不定期に開催している。2月4日、南流山センター2階の和室を記者は訪れた。

同食堂は昨年10月からスタートしたばかりだ。亡くなられた聡美さんのお母様の「社会貢献活動をした」という想いを、聡美さんがテレビ番組で知った「子ども食堂」で実現させた。現在は、ボランティアを含め21人で活動している。

子ども食堂は子どもの貧困対策として注目をあつめている。だが、流山市では、貧困対策よりも地域コミュニティづくりを目指して活動しているところが多いようだ。

新たな市民は経済的には恵まれていても、急激に人口が増加している新興住宅地では人間関係や地域社会との繋がりは希薄だ。社会との接点が少ないまま生活している人も多い。そのため、子ども食堂が地域の居場所を担うことができるのではないかと期待されているのだ。

食材は、売上やNPO法人で農業をしている人、ボランティアの人たちの寄付で成り立っている。そのため、大人300円・子ども100円と安い価格で提供できている。

朝9時から準備を始め、12時にオープンする。3時間ですべての料理を作るので、調理場は忙しい。14時の閉店まで配膳もボランティアの人たちが忙しく動

南流山子ども食堂は、栄養バランスのとれた健康的なメニューを第一に考えて作っている。今月のメニューは、「炊き込みご飯」「はくさいとりんごのサラダ」「肉じゃが」「けんちん汁」にたまご「ごしよく白玉」。毎月6品・7品で100食分作っている。

食材は、売上やNPO法人で農業をしている人、ボランティアの人たちの寄付で成り立っている。そのため、大人300円・子ども100円と安い価格で提供できている。

子ども食堂は子どもの貧困対策として注目をあつめている。だが、流山市では、貧困対策よりも地域コミュニティづくりを目指して活動しているところが多いようだ。

新たな市民は経済的には恵まれていても、急激に人口が増加している新興住宅地では人間関係や地域社会との繋がりは希薄だ。社会との接点が少ないまま生活している人も多い。そのため、子ども食堂が地域の居場所を担うことができるのではないかと期待されているのだ。

同食堂の開催日は、小学校や中学校など様々な場所にポスターを貼ったり、お便りで宣伝している。新しい街のコミュニティは、こんなところからも生まれているのだ。

南流山子ども食堂は、一つの大きなテーブルを相席で囲む。一緒にご飯を食べると、同年代の子どもどうして仲良くなったり、お母さんたちの話も弾み、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもと話しはじめる。

さて、食事がはじまると、「おいしー」と、何回もおかわりする兄弟の姿が目に見え、心配な様子だったのが笑顔で見守っていた。

10月の1回目は80人、2回目は90人、3回目は101人、今回4回目は80人の来場者だった。

来場者には、ボランティアの知り合いや、リピーターもいた。子どもは好き嫌いが多かったが周りを見て全部ご飯を食べてくれた」とメールが届くこともある。

「栄養バランスが取れて、安い値段で食べられるのはうれしい。家で作ると大変で外食は高いので助かる」という反響もある。